

しっかり じっくり 家庭学習

～家庭学習の手引き～

長野市立共和小学校

共和小学校では「共に学び、共に遊ぶ」の学校目標の下、確かな力をつけられるよう、授業の中で様々な学習や活動に取り組み、それらの活動の中で確かな学力の向上を図っているところですが、より確かな基礎的学力を身に付けるには、家庭での学習が不可欠です。

そこで、家庭学習の進め方について手引きをまとめました。お子さんと一緒にご覧いただき、家庭学習の手助けとしてご活用いただけると幸いです。



1 本校で考える家庭学習の在り方

<基本的な考え方>

- 読み、書き、計算など基本的な学習内容を確実に身につけるために毎日くり返し、学習することが大切です。
- 自分で課題を見つけ、追究するという学びの習慣や方法を身につけるために、進んで取り組むことが大切です。
- 時間を計画的に運用し、有効に使えるようになるために、自分で生活のけじめをつけられるようになることが大切です。
- 自主学習は、自分で課題を見つけたり、学んだことをより深く理解したりする力を高める学習です。自主学習によって「どんな力をつけたいのか」「どんな力がついたのか」をしっかり考えた、「学びを深める自主学習」ができるようにしましょう。

《低学年》家庭学習を習慣化していく基本となる時間です 学習目安 20分～30分

- ・できるだけお家の人と楽しく学習をしましょう。
(児童センター等で宿題をしたらお家の人に見てもらいましょう)
- ・ていねいに書くことや計算することを大切にしましょう。
- ・えんぴつの持ち方もたしかめながらすすめましょう。

《中学年》学習を自分からすすんで進める芽を育てましょう 学習目安 30分～40分

- ・どんなことを学習しているのか、お家の人とお話ししましょう。
- ・ていねいに正確に書くことを大切にしましょう。
- ・決められた時間に自分から進んで行うことを大切にしましょう。

《高学年》学習に対しての自主性を育てましょう 学習目安 40分～1時間

- ・自分のペースで、ていねいにじっくりと取り組みましょう。
- ・学習したことを、ときどきお家の人に見ていただきましょう。
- ・自分の目標や課題に向けて学習を進めましょう。予習をするのも良いでしょう。

・時間は、目安です。長期休みには、2回にわけるなどして、さらに30分～60分増やせるとよいでしょう。

2 各学年の家庭学習の内容（ここに書かれていることを基本としています。）

学年	学習定着の家庭学習	自分で学びを進める力を高める家庭学習	目安の時間
1年	・ひらがな、カタカナ、漢字の練習 ・音読 ・絵日記 ・算数プリント、ドリル	習った字を使った言葉集め、文作りなど(週末)	20～30分
2年	・漢字 ・算数プリント、ドリル ・音読 ・日記(週末)	今後、自主学習ノートを配布し、自主学習のやり方を授業で行ってから、自主学習(週末)を開始する。	20～30分
3年	・漢字 ・わくわく問題集 ・音読 ・算数ドリル学習 ・国語漢字スキル	楽しみながらできる学習を自分で選んで行うものと単元を指定してノートにまとめるもの(週末)	30～40分
4年	・漢字 ・復習プリント ・音読 ・ドリル学習 ・日記またはテーマ作文(週末)	教科書のページを指定してノートにまとめる(週末) 個人追究を家庭学習で行う など	40～50分
5年	・漢字 ・復習プリント ・音読 ・ドリル学習 ・日記またはテーマ作文(週末)	教科書のページを指定してノートにまとめる(週末) 個人追究を家庭学習で行う など	50～60分
6年	・漢字 ・復習プリント ・音読 ・ドリル学習 ・日記またはテーマ作文(週末)	テーマを決めた学習(テスト勉強や予習、教科書のまとめなど) 個人追究を家庭学習で行う など	60～70分
特別支援	国語(文字・漢字)算数(計算)のプリント	個々に対応	個々に対応

3 おうちの方へのお願い ～安心・集中して学ぶことのできる家庭の環境づくり～

○ 生活のリズムを整えましょう

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」や朝の排便など、規則正しい生活が大切です。
- ②睡眠時間を十分にとらせ、バランスのとれた食事に配慮下さい。
- ③テレビやゲームは、時間ややり方のきまりをつくり、守らせましょう。

○ 学ぶ雰囲気をつくりましょう

- ①場所は、机でも食卓でもかまいませんが、学習に集中できるようにテレビを消してやるようにさせましょう。
- ②学習時間を決めて、「短時間で集中的に」行うことができるように「下校後すぐ」「遊んで帰ってきたらすぐ」「〇〇時から」「夕食の前に」など、具体的に決めておくことが大切です。できるだけ、夕食の前に学習するように習慣づけましょう。
- ③身の回りの整理整頓をさせましょう。(机の上は、学習に使うものだけ)

○ 努力を認め、励まして下さい。

- ①やろうとする気持ち・がんばりの姿・伸びの実感(できたこと)等への言葉がけをお願いします。
- ②できるだけ、お子さんの学習に目を通してあげて下さい。お家の方の励ましやほめ言葉が学習意欲のアップにつながります。やろうとする気持ち・がんばりの姿・伸びの実感(できたこと)等への言葉がけをお願いします。

4 自主学習を進めるために～各教科からのアドバイス～

自主学習は高学年中心に課題として出すこととなりますが、決して高学年のためだけのものではありません。それまでにやりたいという人は、次のような内容を参考にしてみてください。

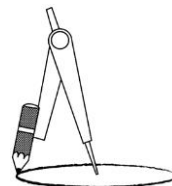
《国語》

- 教科書や借りてきた本を音読しましょう。(声に出す→耳から再確認で読み取り力 UP)
- 書き取り練習した漢字を使った一文を書きましょう。
- 習った漢字を日記の中で使いましょう。日常の中で多く使っていくことが定着につながります。
- 新聞にふれましょう。(土曜版の子ども新聞(信毎)は、中・高学年におすすめです)
- 教科書や借りてきた本の好きな部分を視写しましょう。
- 自分のアイデアで詩やエッセイ、レポートなどに挑戦してみましょう。
(ニュースや読書など生活の中で気にとめたものを)



《算数》

- その日学校で学習したことをもう一度ノートにまとめてみたり、ドリルをくり返しやってみたりするのもいいですね。
- 低学年ではお手伝いや遊びの中にも算数がたくさん含まれています。
「折り紙」や「洗濯物たたみ」は図形の学習に、3つずつお皿に盛りつけたり同じ量に切ったりすればかけ算・わり算・分数の学習へとつながります。お手伝いも、算数の自主学習に入れていただいても良いのではないかと思います。また、家族でかけ算を言い合ったり、お風呂で唱えたりするなど覚える環境づくりを工夫していただけるとありがたいです。家族(親子)のやりとりの中に『算数』があるといいですね。



《社会》

- テレビでも新聞でも何でも、お子さんがきょうみを示したものがあれば、「どうしたの?」「何してるの?」と声をかけ、いっしょに考えることでお子さんが「何でだろう。」を考える機会をつくってあげてください。
- ニュースなどで知らない国や地名が出てきたら、地球儀や地図などで場所を探してみてください。地図を書いてみるのもいいですね。
- 教科書や資料集を見て学習したことをノートにまとめてみましょう。



《理科》

- 理科の学習で大切なことは、授業で学んだことを実際の日常生活の事象で五感を使い体験して確認することです。そのことによってこれからの生活の中で出会う事象に対して自分なりに考え理解しようとする力がついてき



ます。ぜひ、親子で五感を使い自然に親しんだり、簡単な道具のできる理科実験を楽しんだりしてください。

- 学習した知識面の理解には、まず、教科書を見直すことが重要です。単元ごとに書かれた文を音読し、特に太字になっている言葉は覚えることが必要です。各単元の終わりには、「まとめてみよう」のページがあります。復習に活用してください。さらに、学校のテストのやり直し、市販の理科ドリル等を購入していただき、単元終了後にやると学習内容が定着し効果的です。
- 地域の科学イベントに参加することも、科学に対する知的好奇心を喚起する機会となります。

《外国語》

- 興味を持った外国の国について新聞や本などで調べてみるといいですね。日本の国と似ているところや違うところを比べながら見ていくと楽しいですね。
- 教科書を見ながら、アルファベットや覚えた言葉を読んだり、書いたりしてみましょう。日常生活の中で使ってみることもとてもよい学習です。

《生活・音楽・図工・家庭・体育》

- それぞれの教科の内容にそった学習に取り組んでみると良いでしょう。「自然に触れること」「歌や楽器にふれること」「絵をかいたり物を作ったりすること」「体を動かすこと」などに取り組んでみましょう。

5 おわりに

家の中で学習することだけが学習ではありません。自然の中で体を動かしたり、家庭内でお手伝いをしたりしながら体験することは、とても大切な学習となります。また、そうした体験をご家族で話すことも言葉の世界を広げる大切な機会となります。そのような場も大切にしていただければと思います。

